

経営体の概要

- ・所在地: 富山県魚津市
- ・経営体名: 加積りんご品質向上対策協議会
- ・栽培作物・作付面積: りんご・28ha
- ・構成員数: 44名(令和元年5月現在)

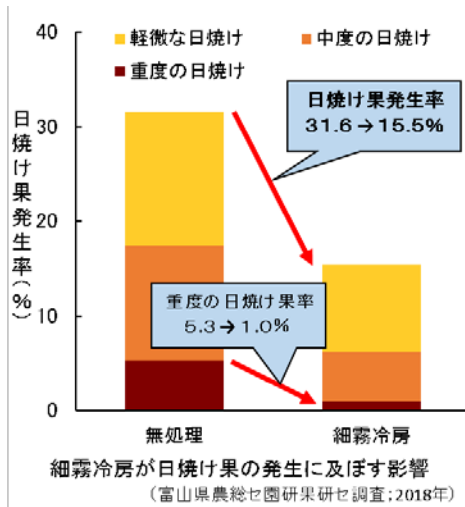
導入技術

- ・細霧冷房装置、遠隔操作かん水コントローラー

リンゴ園地全体に水を流すホースを樹上に配置して細霧ノズルを設置。園地内の気温と湿度をモニタリングし、設定条件で細霧(霧のような水)を噴出させ、日焼け果の発生を軽減するほか、遠隔地からも園内の状況を確認し、制御する技術。



細霧冷房中の様子



導入経緯

- 日焼け果は毎年、恒常的に発生しており、「ふじ」生産果実に占める日焼け果率*は平成29年12.7%、平成30年36.2%で、高温年では発生量が極めて多く、生産への影響は大きい。

*県果樹研究センター内「ふじ」標準樹調査

- 県果樹研究センターでは、平成27年度から4か年をかけて当該技術の研究を行い、実用技術として確立した。

※農林水産省プロジェクト研究「温暖化適応・異常気象対応のための研究開発(温暖化の進行に適応する生産安定技術の開発)」

- 令和元年度に補助事業(持続的生産強化対策事業のうち次世代につなぐ営農体系確立支援事業)を活用し、当該技術を生産現場で検証を行っている。

取組の特徴・効果

- 検証結果に基づき産地内に普及技術として紹介し、導入を推進することで、日焼け果発生軽減による生産性の向上が見込まれる。
- 日焼け果の平均発生率25.4%(過去3カ年平均)が半減することで、産地全体では約17百万円の売り上げ増が見込まれる。
- 今後、ロボット機械や新たなICT技術の情報収集を行い、リンゴ経営に導入可能か検討していく予定。